

群 教 セ	G09 - 02
	平 26. 254 集
	英語一中

# 自分の意見や考えを英語で正しく書ける 生徒の育成

—生徒の興味・関心や学習意欲を喚起する教材提示を通して—

特別研修員 佐藤 俊宏

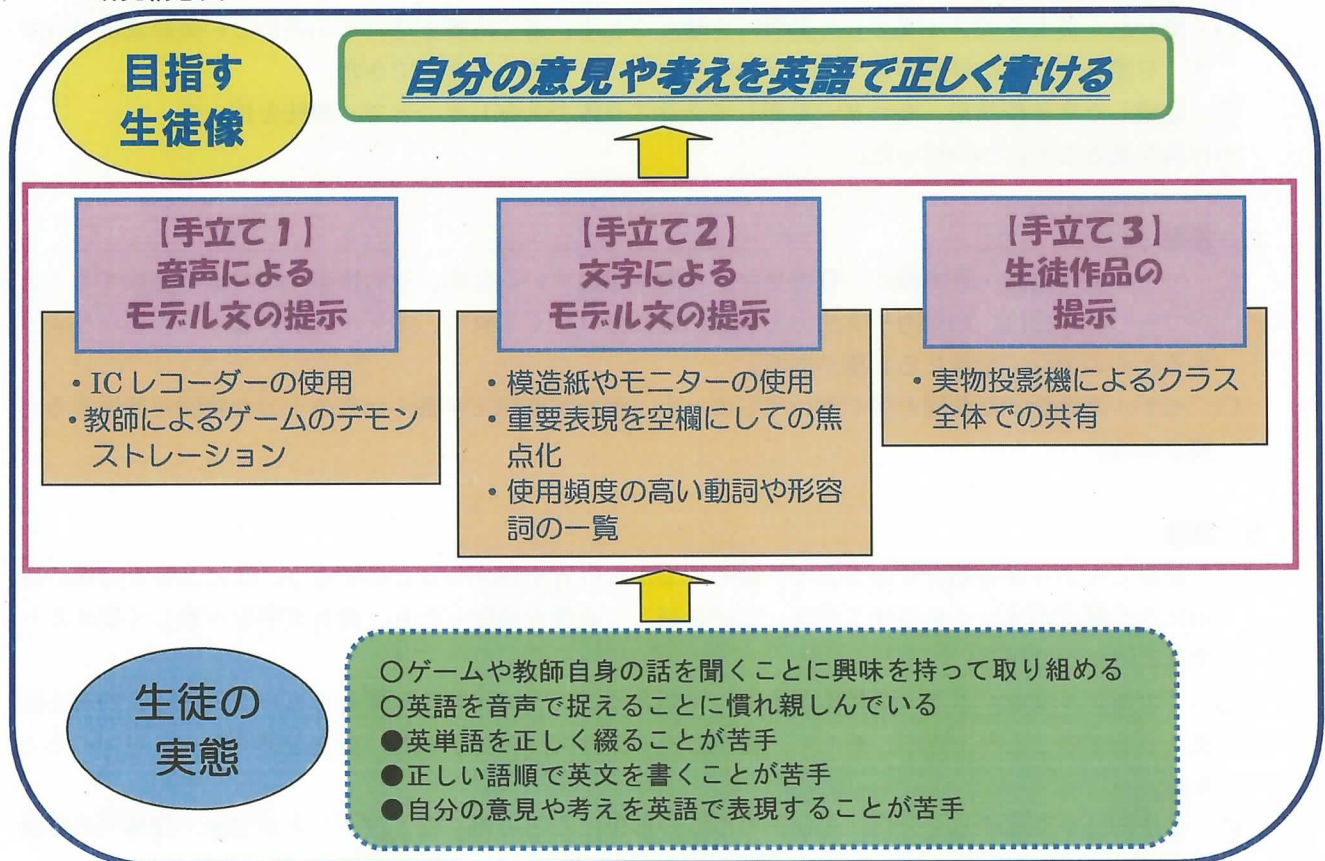
## I 研究テーマ設定の理由

「はばたく群馬の指導プラン」では、「まとまりのある文を正しい英語で書くこと」が、外国語の課題として挙げられている。また、解決に向けて伸ばしたい資質・能力として、「正しい綴りで英文を書くことができる」「正しい語順で英文を書くことができる」「身近な話題や自分の考えなどについてまとまりのある一貫した英文を書くことができる」の三つが挙げられている。本学級の生徒においても、これら三つの資質・能力を伸ばすことが課題である。一方で、小学校の頃に音声を通して英語を学習してきているため、音声で捉えることに慣れ親しんでいる生徒は多い。

そこで、学習する表現をモデル文としてまず音声で提示し、次に文字に表し提示することにより、文字を通して学習することが苦手な生徒にとっては、スムーズに文字で英語表現を捉えることができると考えた。また、このモデル文を参考にさせれば、生徒は進んで正しい英文を作るであろうと考えた。さらには、生徒の作品を提示すれば、クラス全体で参考となる表現を共有できるとともに、生徒の表現力向上にもつながると考えた。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

### (1) 音声によるモデル文の提示

モデル文を口頭や IC レコーダーで紹介する。また、ゲームのデモンストレーションを実際に教師が行う。新出言語材料を音で捉えられるようにしたり、教科書本文の内容の大意を把握できるようにしたりする。

### (2) 文字によるモデル文の提示

口頭で導入したモデル文を、模造紙やモニターを通して見せ、どんなことが言われていたのか確認させる。重要となる表現箇所は空欄にしておき、どんな言葉が入るか考えさせる。英文作成の際には、使用頻度の高い動詞や形容詞を一覧にし、表現したい英語は何なのかすぐに見て書けるようにする。

### (3) 生徒作品の提示

完成した生徒作品を、実物投影機を通してモニターに映し出し、クラス全体で共有できるようにする。どんな表現をしているか確認させ、より詳しい英文を書けるようにさせる。

## III 研究のまとめ

### 1 成果

- 生徒が慣れている音声からの導入を取り入れたことにより、内容を聞き取ろうとする態度を見ることができた。
- モデル文を音声で紹介した後に、モニターや模造紙を通して英文を文字で提示したことにより、使われていた英文を知ろうとする意欲的な姿を見ることができた。
- 重要表現を空欄にし、聞きとるポイントを明示したことにより、書く活動の際には多くの生徒が使用することができた。
- 使用頻度の高い動詞や形容詞を一覧にしたことで、表現したい単語をすぐに見付け、英作文を書き上げることができた。
- 使われた英文をモデル文として参考にさせたことで、書く内容とそれにふさわしい英語表現が分かり、目標とする文や単語の数で自分が表現したいことを書くことができた。
- 完成した生徒作品を、モニターを通してクラス全体で共有したことで、興味を持っての作品を見ることにつながった。

### 2 課題

- モデル文や動詞・形容詞の一覧を見ながら取り組んでいるため、その授業では目標を達成することができる。今後は、語彙力や文法力を着実に身に付けてく手立て、モデル文等がなくても書けるようになるための手立てを講じる必要がある。
- モデル文の提示に時間を多く割いてしまった。生徒が英作文を書くための十分な時間を確保する必要がある。

### 3 提言

- 音声でモデル文を紹介することで、話の大まかな内容を捉えることができる。次に文字と空欄の提示により聞くポイントを示すことは、文字を通して表現を確認したり、音と文字を一致して捉えたりすることにつながる。
- このモデル文をモニターや模造紙を通して紹介することで、興味・関心をもって意欲的に内容を捉えようとするができる。そして、提示したモデル文は生徒が実際に英文を書く際、よりどころとなる。
- 生徒作品を共有することは、生徒の中から、参考になる表現を引き出すことができ、理解力の促進や表現力向上が期待できる。

<授業実践>

実践 1

1 単元名 「Unit 3 “My Future Job”」(第2学年・1学期)

2 本単元及び本時について

本単元では、将来どんな仕事に就きたいのかさくらとベッキーが話している場面と、ウェブページで仕事に必要なことは何か意見交換している場面が取り上げられている。また、本単元の新出言語材料は to 不定詞(副詞的用法、名詞的用法、形容詞的用法)である。そこで、既習の言語材料や to 不定詞を使って自分の就きたい職業のことなどを含めた4文以上のまとまりのある自己紹介文を書く課題を設定した。

3 授業の実際

① ALT が将来したいことを表現した英文 (Type A) をあらかじめ IC レコーダーに録音しておき、その音声を聞かせた。

② 使用した英文を黒板に掲示した(図1)。重要表現を空欄にしておき、どんな表現が入るのか再度 ALT の英文を聞かせ、確認した。空欄に入る英語を聞き取ろうとしている姿を見ることができた。その後、JTE が将来したいことを表した英文 (Type B) を紹介し、ALT のものと同様に、英文の提示、重要表現の確認をした(図2)。Type B については、Type A に比べ、文数の少ない文章とし、基本的な表現を使った文章とした。

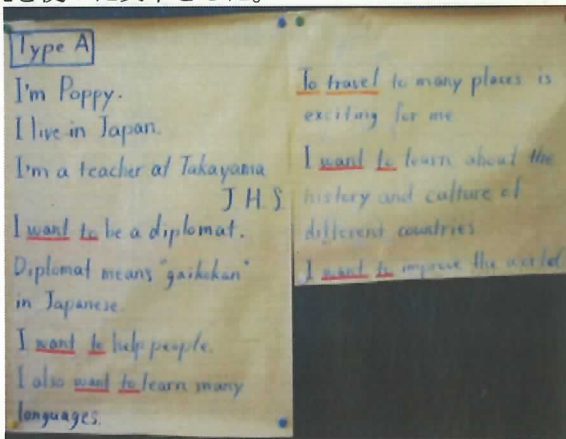


図1 ALT が将来したいことを表現した英文 (Type A)

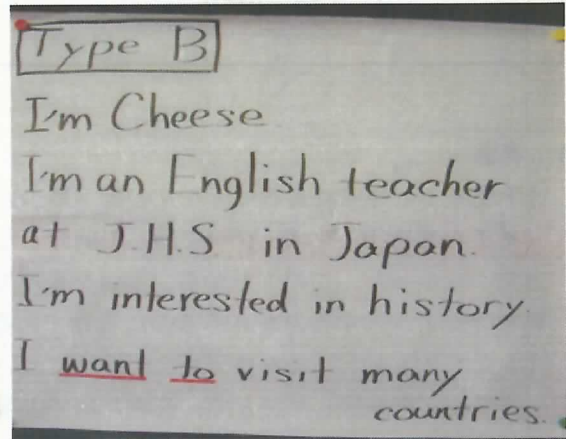


図2 JTE が将来したいことを表現した英文 (Type B)

③ 既習の動詞の中から生徒が使いそうな使用頻度が高い動詞を一覧にし、掲示した(図3)。どんな動詞を使ったらいいのかわからない生徒は、この一覧を見ながら書き進めることができた。また、辞書を使ったり、友達に聞いたりする時間が少なくなり、英文を書く上での時間短縮につながった。

よく使うよく出てくる動詞		
play 遊ぶ	write 書く	
like 好き	have 食べる	
love 大好き	use 使う	
come 来る	live in 住む	
go 行く	work 働く	
want ほしい	watch 見る	
speak (英語) 話す	read 読む	
talk with/to 話す	eat 食べる	
know 知っている	run 走る	
study 勉強する	make 作る	
try 試す	cook 料理する	
	enjoy 楽しむ	

図3 使用頻度の高い動詞一覧

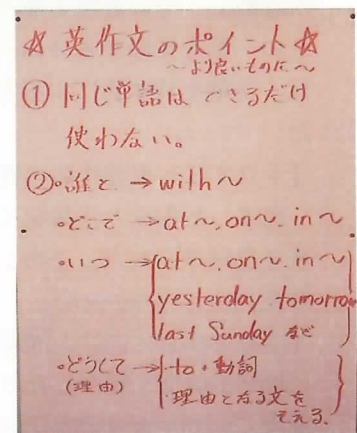


図4 英作文を書く上でのポイント

④ 英作文を書く上でのポイントを提示した(図4)。文を具体的にする方法が分かるとともに、やり方を知りたいときに見ることができたので、自分の英文をより情報量の多いものにすることができた。

⑤ 将来就きたい職業やしたいことについて、理由等を加えて自己紹介文を作成した。生徒は必要に応じて動詞一覧を見たり辞書を使ったりした。ほとんどの生徒が4文以上からなる文章を作成できた。

⑥モニターを通して生徒作品を共有した(図5)。モニターを使ったことで、どんな英文が書かれているのかよく見て、確認することができた。また、接続詞がしっかりと使われている文章を見ることができ、まとまりのある文章にするための方法を生徒の作品から知ることができた(図6)。その後、自分の文章に理由を加えたり、接続詞を加えて自分の文章がまとまりのあるものとなるよう修正したりする生徒もいた。



図5 モニターを通しての生徒作品の共有

生徒の作品の中から、正しく so が使われていることを引き出し、クラス全体で共有することができた。

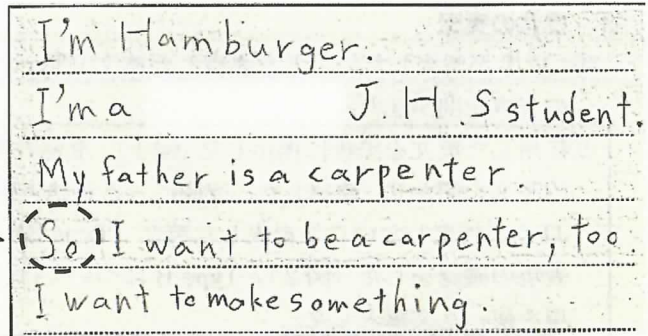


図6 生徒の作品例①

#### 4 考察

##### 【手立て1：音声によるモデル文の提示について】

モデル文をICレコーダーを通して紹介したことは、英文の内容を聞き取ろうとする姿勢にさせることにつながった。このことから、英語を音声で捉えることに慣れ親しんでいる生徒にとって、内容の大筋を捉えようとする力を高めるのに有効であると考えられる。

##### 【手立て2：文字によるモデル文の提示について】

モデル文を提示したことで、音声だけで表現や内容を捉えきれなかった生徒は、どんな英文だったのか目で確認することができた。また、重要表現を空欄にしておいたことで、どんな表現が入るのか集中して考えることができた。さらには、今回のテーマについて書くにあたってどんな表現を使えばよいか理解し、その表現を使って書くことができた。使用頻度が高い動詞の一覧については、多くの生徒がこの一覧を見ながらスムーズに書き進められることにつながった。また、英作文を書く上でのポイントは、文章を具体的にする方法の助けとすることができ、生徒は自分の作品をより詳しくすることができた。

##### 【手立て3：生徒作品の提示について】

完成した生徒の作品をモニターを通して提示したことで、生徒の作品をクラス全体で共有し、良い表現を見付けられた。このことから、生徒の表現力向上につながったと考える。また、紹介された生徒の意欲向上につながった。

##### 【授業実践2に向けた課題】

教師が英文を紹介したり、重要な表現を確認したりすることに時間がかかってしまった。生徒が英文を書く時間や生徒作品の紹介の時間を確保するために、教師の説明を少なくすることが必要である。

実践 2

1 単元名 Unit 5 “A New Language Service” (第2学年・2学期)

2 本単元及び本時について

本単元では、日本語が分からずに困っている外国人を助けるためにある市が計画している、新しいサービスについての広報誌や新聞記事が取り上げられている。本単元における新出言語材料は、接続詞 *if, that, when, because* である。そこで、本単元では、「英語を勉強することをあなたはどう思うか」という質問に対し、これら4つの接続詞と既習の言語材料を使用して、20語程度で自分の考えを書くという目標を設定した。また、本時では *I think (that) ~* を使ってペアでお互いの好みを推測する活動をし、読書に対する自分の考えとその理由を英語で書くことができることを目標にした。

3 授業の実際

① *I think (that) ~* を使って、まず JTE と ALT とで好きな色を当てるゲームを見せた(図7)。自然と使えるよう多用した。

JTE : I think you like yellow.  
 ALT : No.  
 JTE : I think that you like blue.  
 ALT : Yes.  
 JTE : Really? Me, too.



図7 *I think (that)~* を使った JTE と ALT とのやりとり

②次に ALT と生徒が好きな色を当てるやりとりをした。生徒はどんなことが言われているか推測して答えることができていた。

③モニターに「\_\_\_\_\_ you like red.」と映し出し、空欄にどんな表現が入ったか尋ね、確認した。すぐに分かった生徒がおり、答えることができた。

④ *I think (that) ~* の意味を確認した。

⑤生徒同士で好きな色を当て、口頭で伝えるゲームを行った。

⑥ *I think (that) ~* を使って生徒同士で好きな給食メニューを当てる活動をした。この活動では、書いた後に、その文を覚えて伝える活動をした。活動前に教師同士でモデルを示し、そのモデル文(図8)を板書したことでスムーズに活動に取り組んでいた。

**I think you like spaghetti.**  
**I think that you like grapes.**

図8 板書したモデル文

JTE : I think you like spaghetti.  
 ALT : No.  
 JTE : Really!? I think that you like grapes.  
 ALT : Yes.  
 JTE : We can eat grapes from Takayama today  
 ALT: Wow! Wonderful!

⑦ *I think (that) ~* を使って読書に対する自分の考えとその理由を書く活動を行った。教師二人が作成したモデル文を提示し、参考にさせた。また、生徒が使うと思われる形容詞を一覧にし、掲示した(図9)。モデル文については、既習の表現(助動詞等)をうまく使用しながら、肯定、否定の両方を示した。形容詞一覧は、授業実践1の動詞一覧と同様、自分が伝えたいことを見付ける時間を少なくすることに役立った。

【モデル文】  
 • I think that to read books is interesting. We can learn many things from books.  
 • I think we have to read books. We can know many things from books.  
 • I don't think that to read books is interesting. I don't understand the story.

形容詞  
 ・interesting 面白い  
 ・important 大切な 重要な  
 ・useful 役に立つ  
 ・exciting わくわくする  
 ・wonderful 素晴らしい  
 ・boring つまらない  
 ・easy 簡単な  
 ・difficult 難しい

図9 形容詞一覧

⑧モニターを通して、生徒の作品を映し出し、全体で共有した(図10)。I think (that) 以降に自分の意見が書かれていることを再確認することができた。また、多様な意見、理由を知ることができた(図11、12の実線の丸囲み)。未習の表現を辞書で調べ、少しでも学習した表現や他の生徒が分かる表現に直し、英文の中に取り入れ、伝えたい内容に仕上げる努力をしていた生徒もおり、(図12の点線の丸囲み) 全体の前でその努力を讃えた。



図10 モニターを通して生徒作品を共有

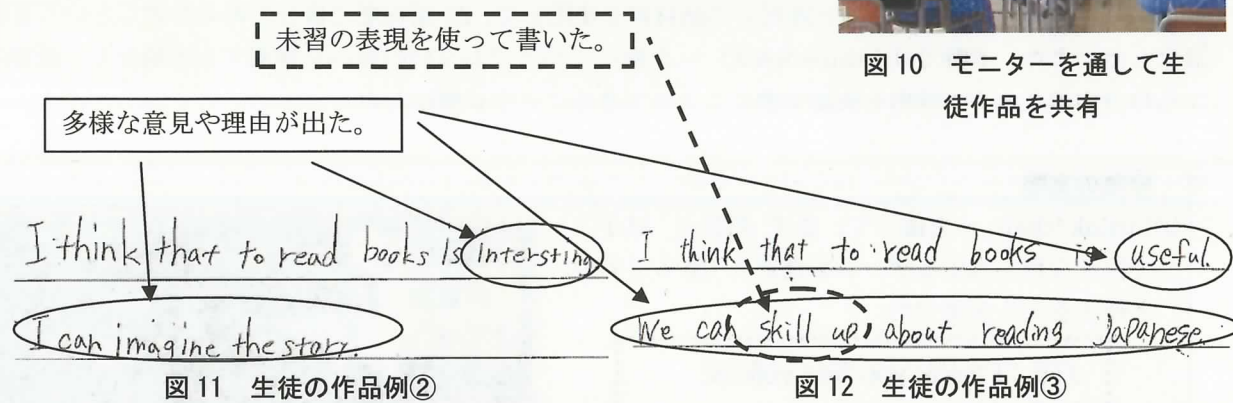


図11 生徒の作品例②

図12 生徒の作品例③

#### 4 考察

##### 【手立て1：音声によるモデル文の提示について】

ゲーム性を持たせて口頭で導入したり、ALTと生徒とでやりとりしたりしたことで、生徒は興味をもって英語に聞くことができた。また、I think (that) ~を多用したことで、生徒はどんな表現を使っているのかすぐに理解し、さらには生徒同士で好きな色を当て口頭で伝える活動でも、すぐに使うことができた。一方、同じパターンで何度も聞かせてしまい、生徒を退屈させてしまった。テンポよく行ったり生徒の様子次第では早くに次の活動に移ったりすれば、興味・関心を維持して取り組ませることができると考える。

##### 【手立て2：文字によるモデル文の提示について】

教師がモデル文を示したことで、生徒はすぐにI think (that) ~を使って書くことができた。読書についてどう思うか自分の意見を書く場面で形容詞一覧を掲示したことは、自分の意見を思うように言えない生徒にどんな語彙があるか気付かせることができ、意見文作成に早くに取り組ませることにつながった。一方、提示したモデル文の数が多かったため、生徒にとっては選択肢が広がりすぎたようであった。

##### 【手立て3：生徒作品の提示について】

モニターを通して提示したことで、興味をもって画面をみることができた。また、生徒の作品を共有したことで、I think (that) ~の確認を行ったり、自分以外の意見や理由、様々な表現を知ったりすることができた。このことから、モニターを通した生徒作品の提示は、英文作成において有効であると考えられる。また、紹介された生徒にとっては、どこが良かったのかが分かり、表現力の向上につながったと考える。

##### 【今後に向けて】

音声によるモデル文の把握に慣れてきた様子が見られることから、モデル文の提示に時間がかからないようにする。単語の一覧は英文作成において有効であることから、活動で使いそうな単語をあらかじめリストアップし、生徒に示すことが大切である。これらを行うことで、生徒が英文を作る時間、できるだけ多くの生徒作品を提示できる時間を確保し、書く力を高めていくことが必要である。